

山形県子どもの生活実態調査の結果【概要版】

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本県の子どもたちが、家庭の事情や経済的な問題により将来の可能性が閉ざされることのないよう、子育て世代の親及び子どもの生活実態や支援ニーズ等を把握し、子どもの貧困対策の効果的な施策展開と施策の充実を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査対象 **7,591世帯**

平成30年4月1日現在、満5歳（年長児相当）、満10歳（小学5年生）、満13歳（中学2年生）、満16歳（高校2年生相当）の子どもとその保護者
※満5歳は保護者のみ

(3) 調査方法 住民基本台帳から上記対象年齢毎に5分の1程度を無作為に抽出し、郵送により調査票を配布・回収

(4) 調査期間 平成30年8月9日から9月3日まで

(5) 有効回答 **子ども 1,807世帯 (30.5%)** ※満5歳を除く5,919世帯中
(回答率) **保護者 2,529世帯 (33.3%)**

(6) その他 最終結果については、平成30年度中にとりまとめ公表予定

2 結果の概要

I 世帯の状況

- ひとり親世帯は13.4%で、そのうち母子又は父子のみの世帯は6.6%
- 二世帯世帯は53.4%で、三世帯世帯は43.0%
- 平均世帯人員は4.8人で、平均の子どもの数は2.0人

(1) 世帯構成

【世帯類型別】

| 全世帯 | 母子世帯 | | 父子世帯 | | 二人親世帯 | | その他 (不明含む) |
|-------------------|----------------|---------------|--------------|--------------|------------------|------------------|---------------|
| | | 母子のみ | | 父子のみ | | 二人親と 子どものみ | |
| 2,529 (100.0%) | 264 (10.4%) | 139 (5.5%) | 76 (3.0%) | 27 (1.1%) | 2,099 (83.0%) | 1,185 (46.9%) | 90 (3.6%) |

【世帯構造別】

| 全世帯 | 二世帯世帯 | 三世帯世帯 | その他 (不明含む) |
|-------------------|------------------|------------------|---------------|
| 2,529 (100.0%) | 1,351 (53.4%) | 1,088 (43.0%) | 90 (3.6%) |

(2) 平均世帯人員 4.8人

(3) 平均の子どもの数 2.0人

■集計区分

世帯の所得に応じて次のとおり設定し、集計を行った。

| | |
|-----|--------------------|
| A世帯 | 等価可処分所得が122万円未満の世帯 |
| B世帯 | 等価可処分所得が122万円以上の世帯 |
| 全世帯 | A世帯とB世帯の合計 |

※等価可処分所得・・・世帯の可処分所得（所得税、住民税、社会保険料及び固定資産税を差し引いた後のいわゆる手取り収入）を世帯員数の平方根（ $\sqrt{\quad}$ ）で割った所得

※厚生労働省の「平成28年国民生活基礎調査（平成27年の所得）」において算出された等価可処分所得の中央値（244万円）の半分の額（122万円）が「貧困線」とされ、貧困線に満たない世帯員の割合が「貧困率」とされている。

【等価可処分所得122万円（貧困線）未満の世帯所得の目安】

- ・ 2人世帯：172万円以下（1,720,000円 $\div\sqrt{2}$ =1,216,224円）
- ・ 3人世帯：211万円以下（2,110,000円 $\div\sqrt{3}$ =1,218,209円）
- ・ 4人世帯：243万円以下（2,430,000円 $\div\sqrt{4}$ =1,215,000円）
- ・ 5人世帯：272万円以下（2,720,000円 $\div\sqrt{5}$ =1,216,421円）

II 保護者の就労状況

(1) 就業形態

- ・ 全世帯の父の99.1%は「仕事あり」で0.9%が「仕事なし」、母の88.4%は「仕事あり」で11.6%が「仕事なし」
- ・ 全世帯の「仕事あり」の母のうち非正規雇用は38.8%（正規雇用38.8%と同じ割合）
- ・ A世帯の母はB世帯の母に比べて非正規雇用の割合が10.3ポイント高い。

| | 父 | | | 母 | | |
|-----------------------------------|------------------|----------------|------------------|------------------|----------------|------------------|
| | 全世帯 | A世帯 | B世帯 | 全世帯 | A世帯 | B世帯 |
| 仕事あり | 2,308 (99.1%) | 257 (98.1%) | 2,051 (99.2%) | 2,281 (88.4%) | 325 (89.5%) | 1,956 (88.2%) |
| 正規雇用（民間企業の正社員、 公務員などの正職員、団体職員） | 1,684 (72.3%) | 130 (49.6%) | 1,554 (75.1%) | 1,001 (38.8%) | 91 (25.1%) | 910 (41.0%) |
| 非正規雇用（契約社員、派遣 社員、パート、アルバイト等） | 83 (3.6%) | 21 (8.0%) | 62 (3.0%) | 1,002 (38.8%) | 173 (47.7%) | 829 (37.4%) |
| その他（会社役員、自営業等） | 541 (23.2%) | 106 (40.5%) | 435 (21.0%) | 278 (10.8%) | 61 (16.8%) | 217 (9.8%) |
| 仕事なし | 22 (0.9%) | 5 (1.9%) | 17 (0.8%) | 300 (11.6%) | 38 (10.5%) | 262 (11.8%) |
| 合計 | 2,330 | 262 | 2,068 | 2,581 | 363 | 2,218 |
| 無回答 | 242 | 107 | 135 | 61 | 10 | 51 |

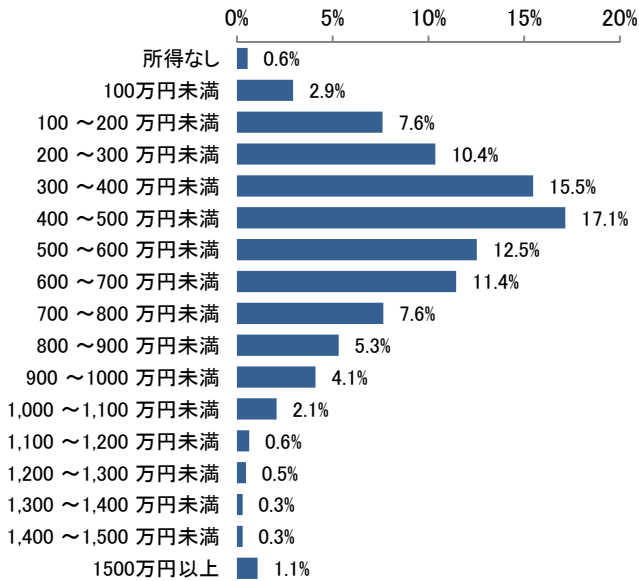
※（ ）内は、無回答を除く世帯区分毎の合計に対する構成割合

Ⅲ 世帯の経済状況

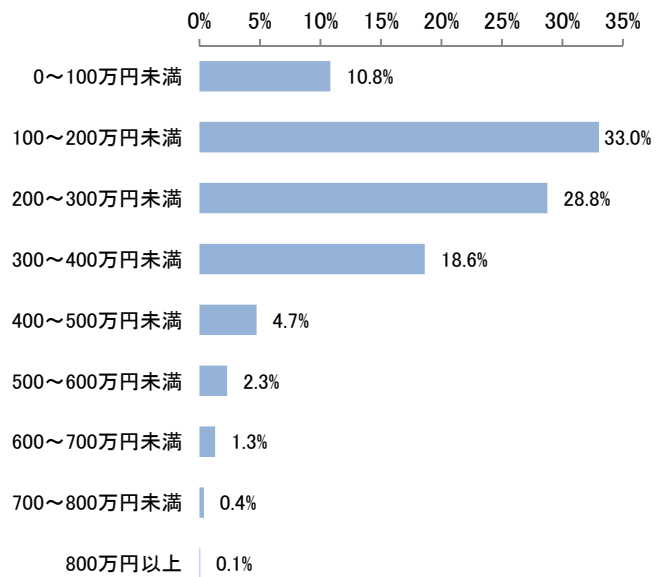
(1) 世帯の所得（可処分所得）

・ 1世帯当たりの可処分所得の平均金額は515万円（等価可処分所得の平均金額は241万円）

①世帯の所得の分布



②子どもの等価可処分所得の分布



(2) 子どもの貧困率

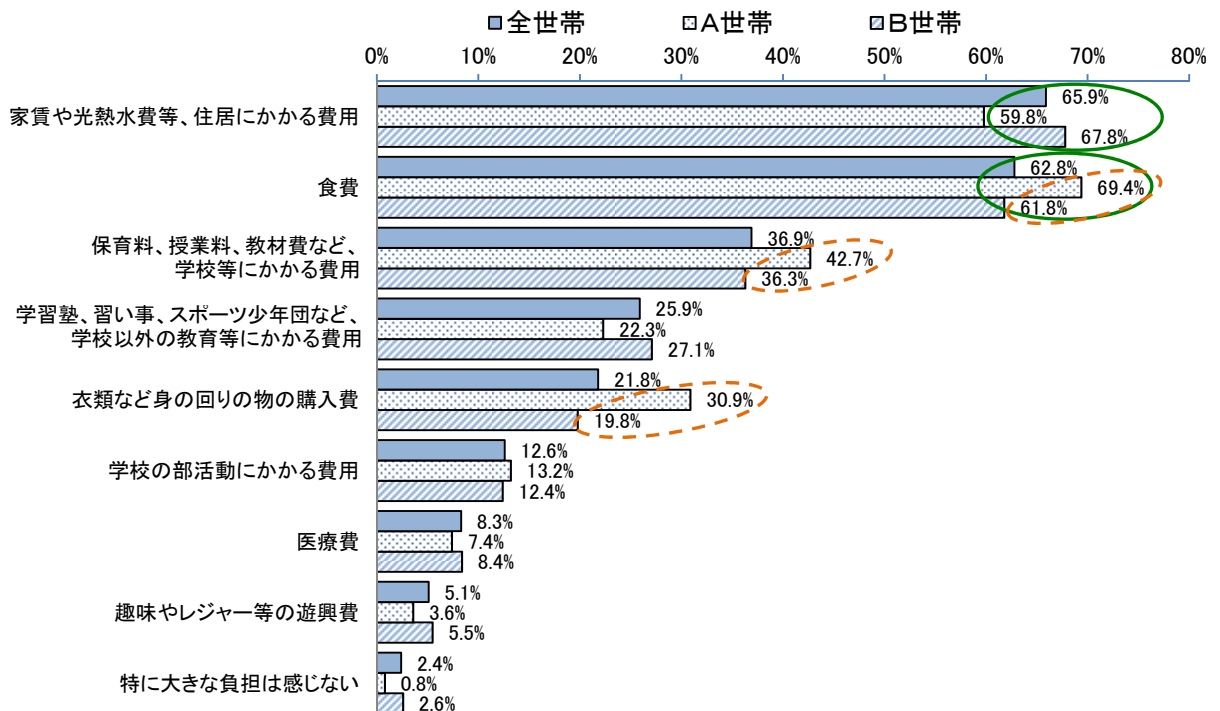
・ 世帯の等価可処分所得が122万円に満たない世帯の子どもの割合は16.0%

※平成28年国民生活基礎調査における全国の子どもの貧困率は13.9%

(3) 家計の支出（家計の支出の中で負担が大きいと感じるもの）【保護者の回答】

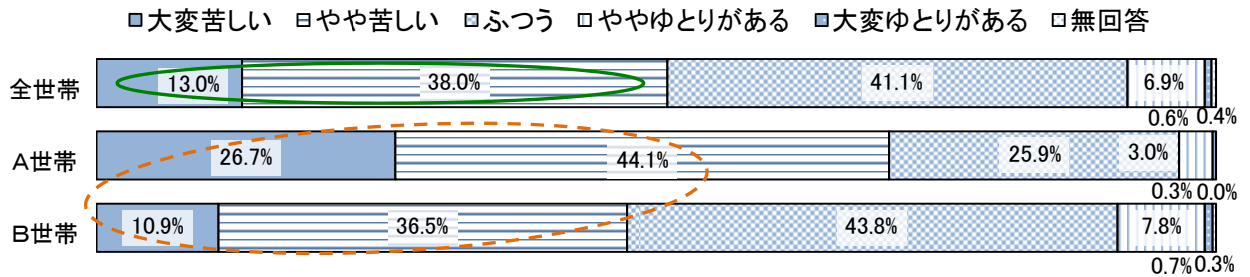
・ 全世帯の6割以上が住居に係る費用や食費の負担が大きいと回答

・ A世帯はB世帯に比べて食費（+7.6ポイント）や学校等にかかる費用（+6.4ポイント）、衣類など身の回りの物の購入費（+11.1ポイント）の負担が大きいと感じる割合が高い。



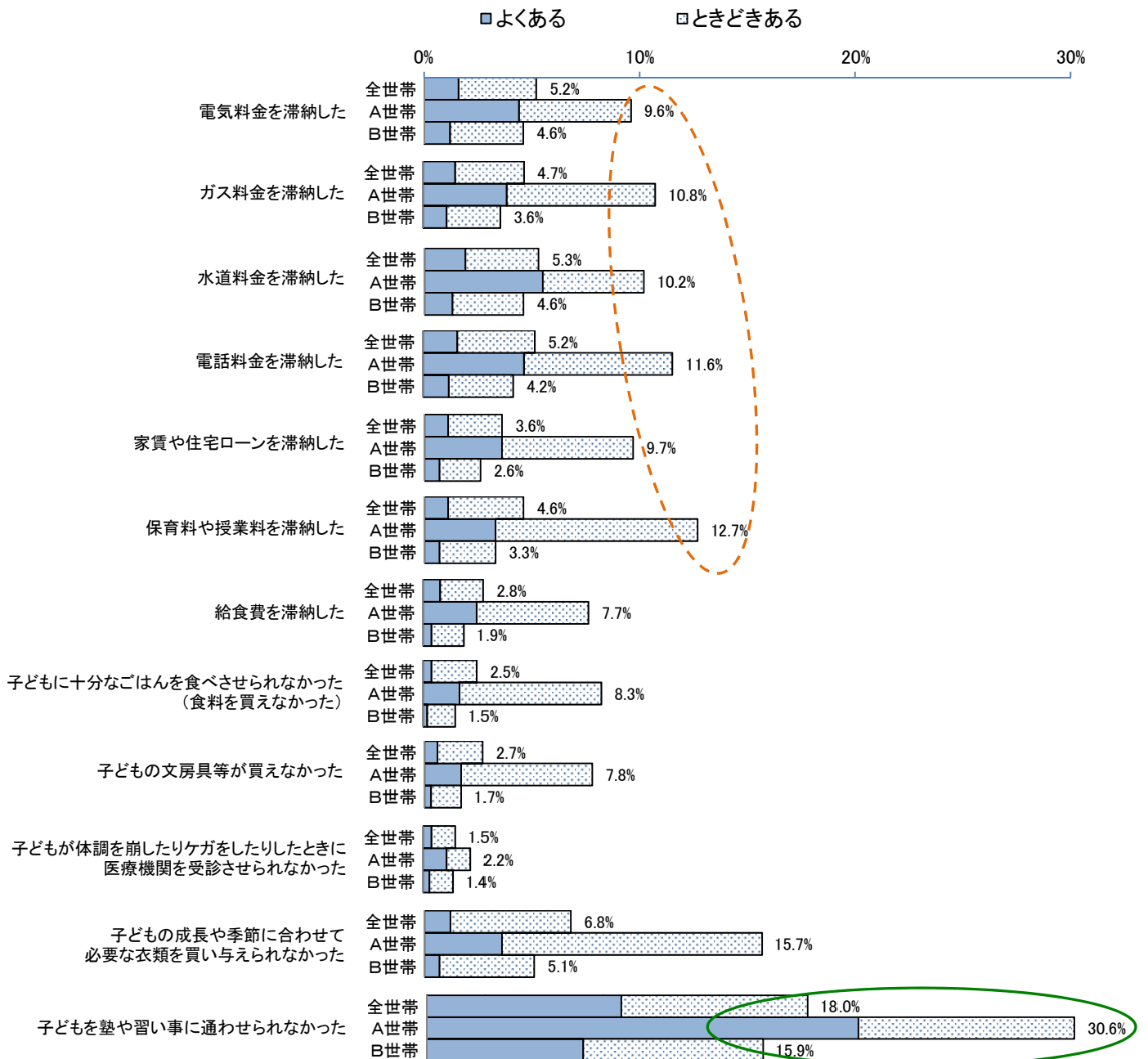
(4) 暮らし（生活意識）の状況【保護者の回答】

- 全世帯の51.0%が生活が苦しいと回答し、A世帯（70.8%）はB世帯（47.4%）に比べてその割合が23.4ポイント高い。



(5) 経済的な理由による経験【保護者の回答】

- 全世帯の18.0%が子どもを塾や習い事に通わせられなかった経験があると回答
- A世帯では約1割が電気・ガス・水道・電話料金や家賃・住宅ローンのほか、保育料や授業料を滞納した経験があると回答

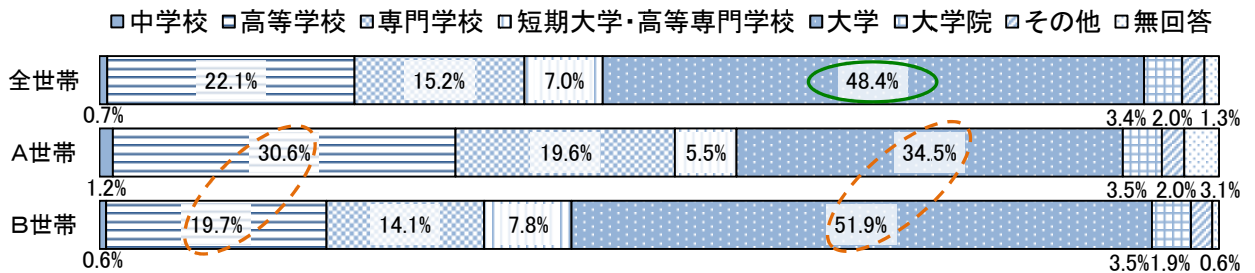


IV 子どもの進学

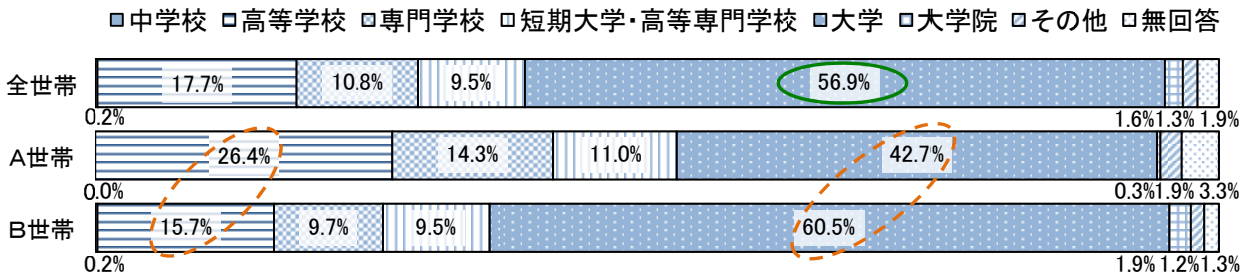
(1) 進学の希望

- ・全世帯で子ども・保護者ともに大学まで希望する割合が最も高い（子ども48.4%、保護者56.9%）。
- ・A世帯はB世帯に比べて高等学校まで希望する割合が高く（子ども+10.9ポイント、保護者+10.7ポイント）、大学まで希望する割合が低い（子ども△17.4ポイント、保護者△17.8ポイント）。

【子どもの回答】

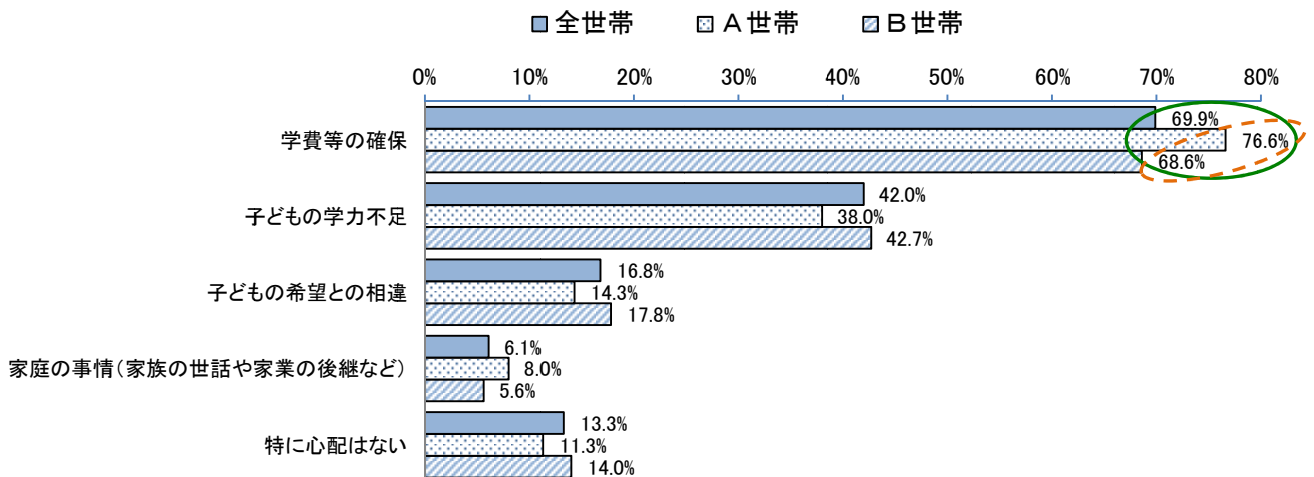


【保護者の回答】



(2) 子どもの進学について心配なこと【保護者の回答】

- ・全世帯で学費等の確保を心配する回答が多く、A世帯（76.6%）はB世帯（68.6%）に比べてその割合が8.0ポイント高い。

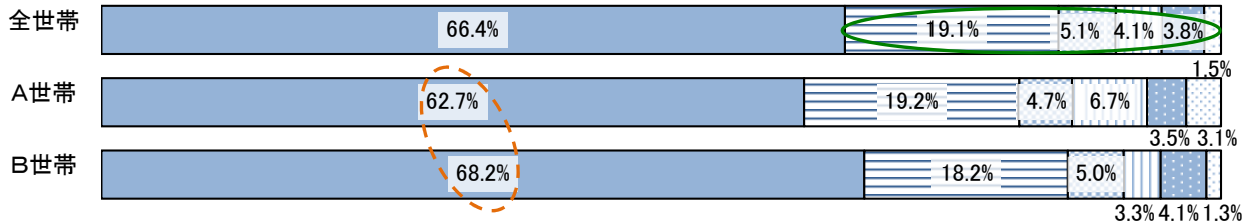


V 子どもの家庭での生活

(1) 1週間のうち自宅で子どもだけでごはんを食べる回数【子どもの回答】

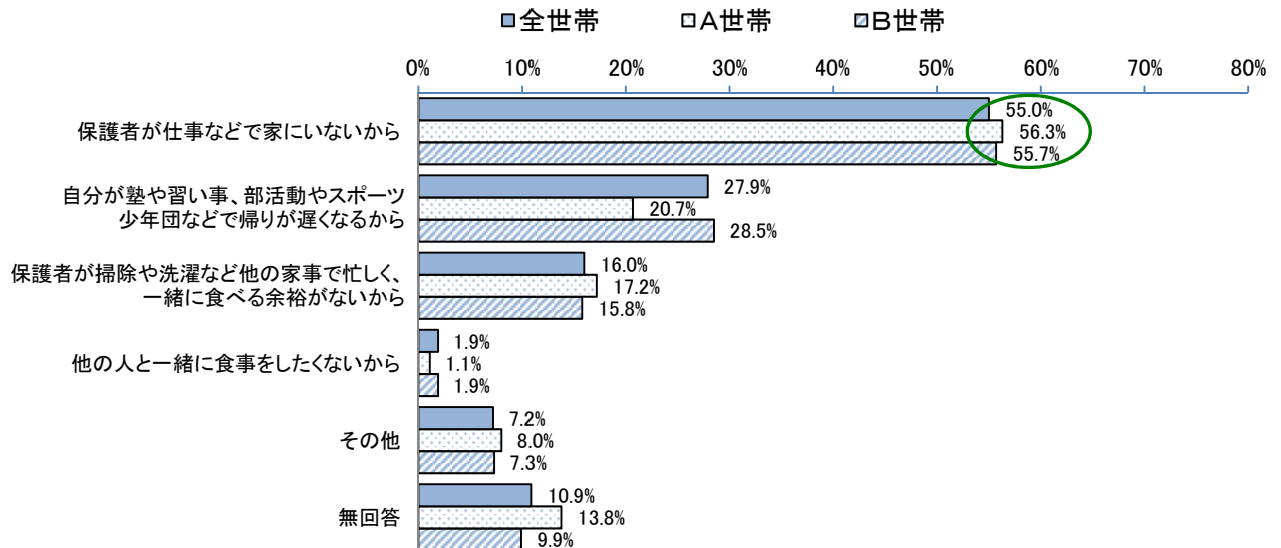
- 全世帯の3人に1人（32.1%）が1週間のうち1回以上子どもだけでごはんを食べることがあると回答
- A世帯はB世帯に比べて子どもだけで食べることはないと回答した割合が5.5ポイント低い。

□子どもだけで食べることはない □1～2回 □3～4回 □5～6回 □7回以上 □無回答



(2) 子どもだけでごはんを食べる理由（(1)で「子どもだけでごはんを食べることはない」以外を選んだ人のみ回答）【子どもの回答】

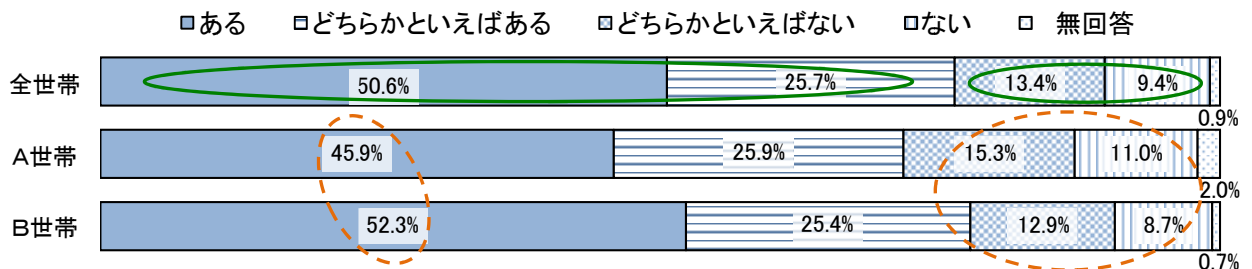
- 全世帯の5割以上（55.0%）が保護者が仕事などで家にいないからと回答



VI 子どもが考えていること・感じていること

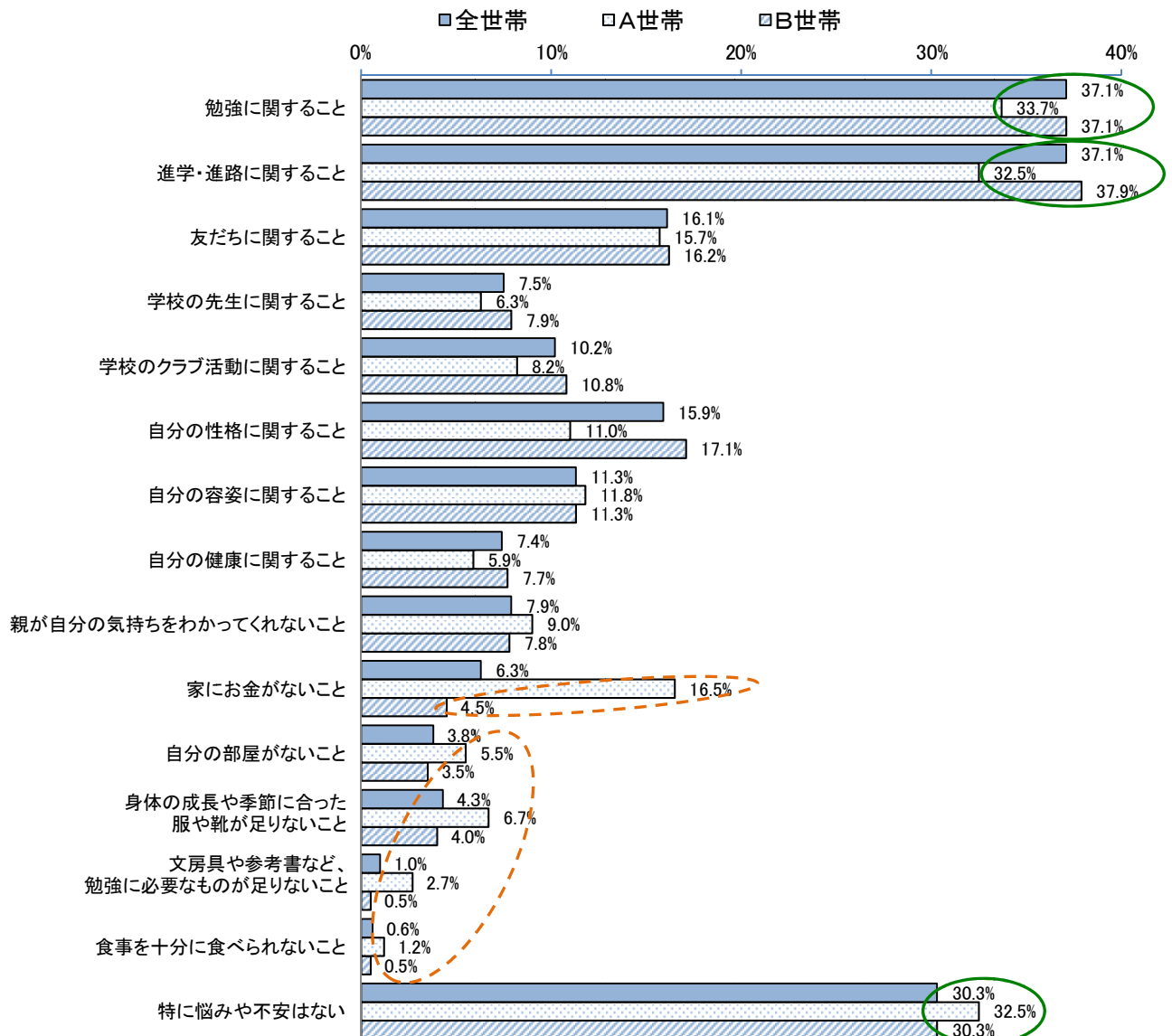
(1) 将来の夢があるか【子どもの回答】

- ・全世帯では「ある」と「どちらかといえばある」が76.3%、「ない」と「どちらかといえばない」が22.8%
- ・A世帯はB世帯に比べて「ある」の割合が6.4ポイント少なく、「ない」と「どちらかといえばない」の割合が4.7ポイント高い。



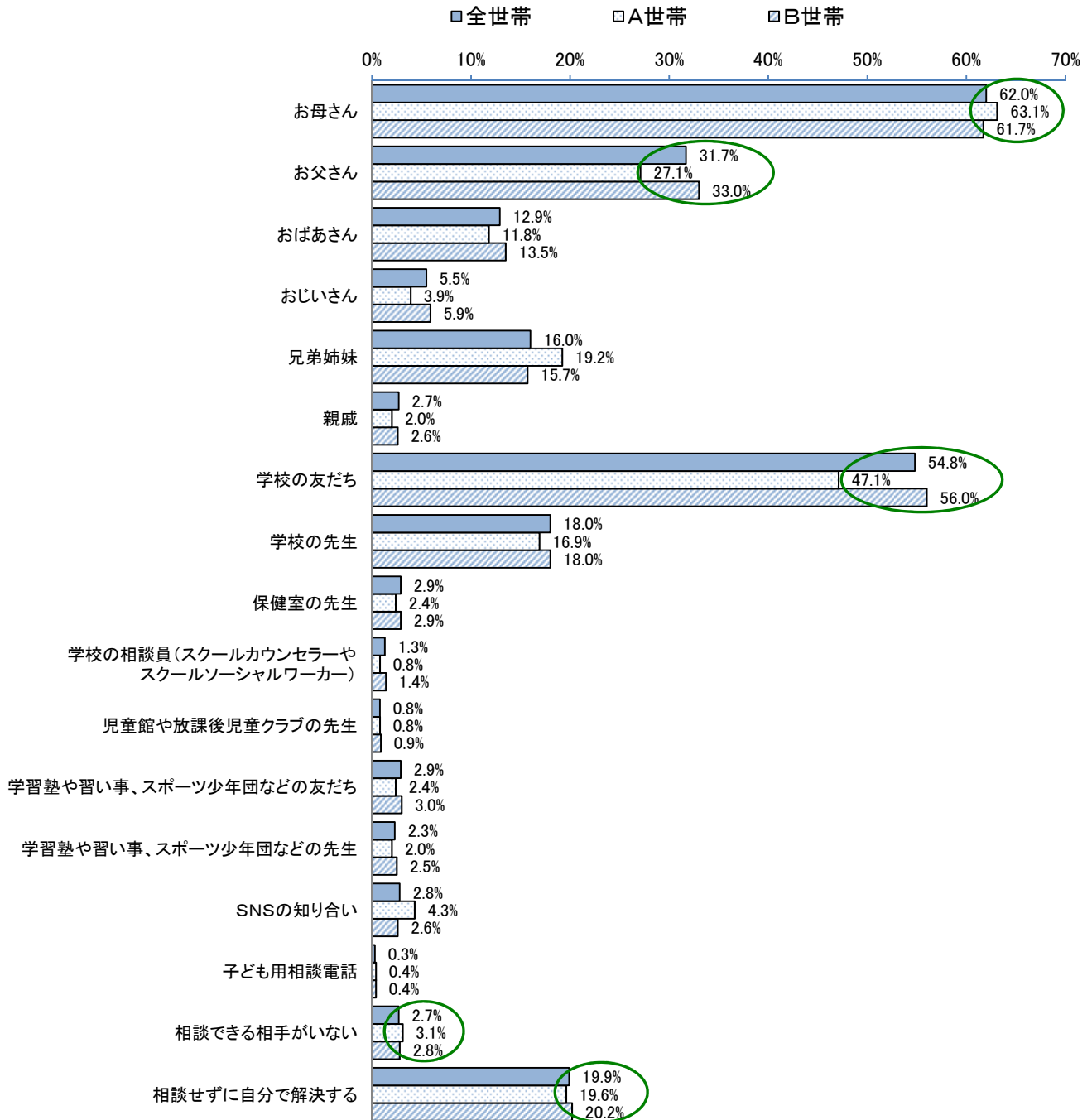
(2) 悩んだり不安を感じたりしていること【子どもの回答】

- ・全世帯の3割（30.3%）は特に悩みや不安はないと回答しているが、勉強や進学・進路に関してはいずれも37.1%が感じていると回答
- ・A世帯はB世帯に比べて家にお金がないことや自分の部屋、服や靴、勉強に必要なものが足りないことなどに悩みや不安を感じている割合が高い。



(3) 悩みや不安を相談する人【子どもの回答】

- 全世帯でお母さんやお父さん、学校の友だちに相談する割合が多く、2割（19.9%）は相談せずに自分で解決すると回答
- 全世帯の2.7%が相談できる相手がないと回答



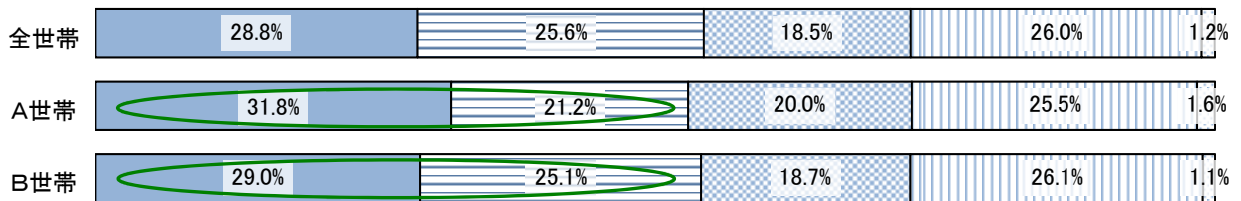
VII 公的支援制度の利用状況等

(1) 子ども食堂への参加意向

- 子どもは、A世帯の53.0%、B世帯の54.1%が「利用したい」又は「どちらかといえば利用したい」と回答
- 保護者は、A世帯の26.5%、B世帯の19.0%が「参加させたい」又は「すでに参加している」と回答

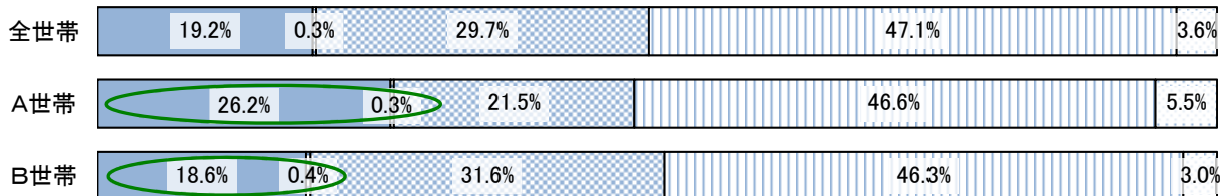
【子どもの回答】

□利用したい □どちらかといえば利用したい □どちらかといえば利用したくない □利用したくない □無回答



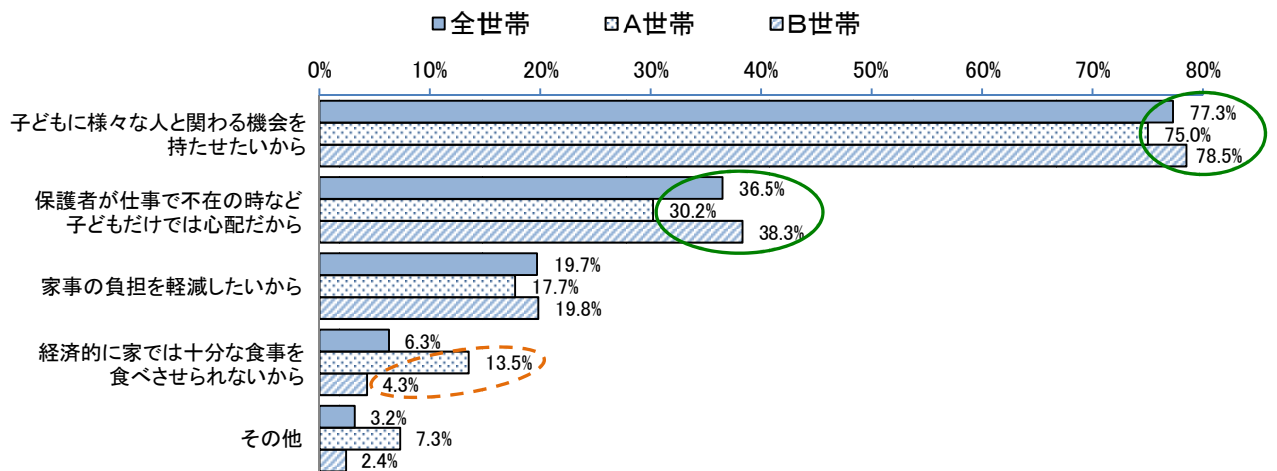
【保護者の回答】

□参加させたい □すでに参加している □参加させたくない □わからない □無回答



(2) 子ども食堂に参加させたい（すでに参加している）理由（(1)で「参加させたい」と「すでに参加している」を選んだ人のみ回答）【保護者の回答】

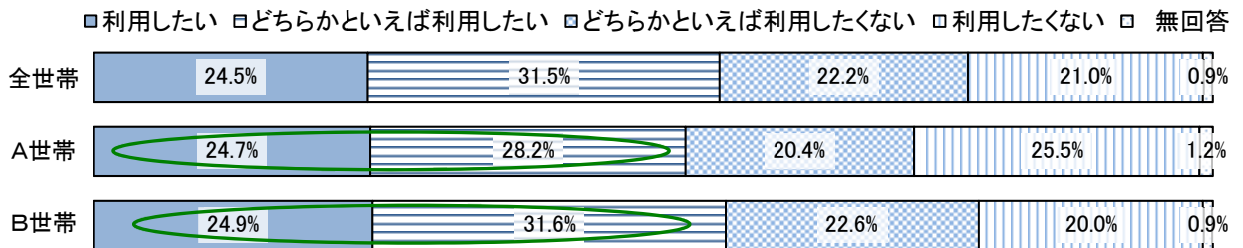
- A世帯、B世帯ともに4分の3以上が子どもに様々な人と関わる機会を持たせたいからと回答し、3分の1が保護者が不在の時など子どもだけでは心配だからと回答
- A世帯はB世帯に比べて経済的に家では十分な食事を食べさせられないからと回答した割合が9.2ポイント高い。



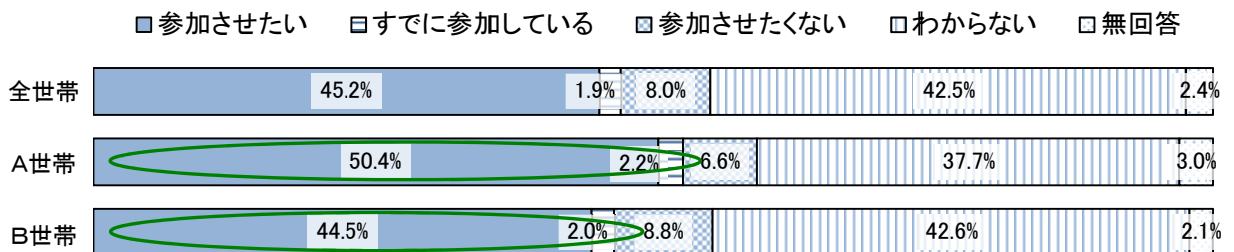
(3) ボランティア等による無料又は低額の学習支援への参加意向

- 子どもは、A世帯の52.9%、B世帯の56.5%が「利用したい」又は「どちらかといえば利用したい」と回答
- 保護者は、A世帯の52.6%、B世帯の46.5%が「参加させたい」又は「すでに参加している」と回答

【子どもの回答】

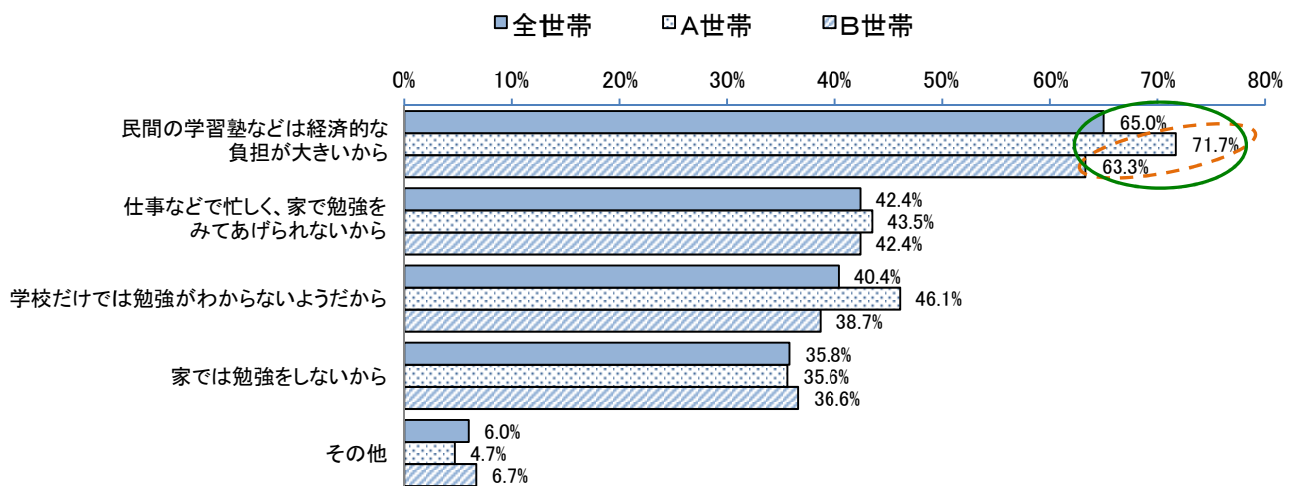


【保護者の回答】



(4) 学習支援に参加させたい（すでに参加している）理由（(3)で「参加させたい」と「すでに参加している」を選んだ人のみ回答）【保護者の回答】

- A世帯、B世帯ともに民間の学習塾などは経済的な負担が大きいからという回答が最も多く、A世帯はB世帯に比べてその割合が8.4ポイント高い。



(5) 充実が必要な支援制度【保護者の回答】

- 全世帯で保育料や授業料の負担軽減、進学のための奨学金等の充実、子どもの医療費支援の充実などの経済的支援のほか、保育サービスの充実や子どもの学習支援の充実が必要とする回答が多い。
- A世帯ではB世帯に比べて就学援助や保護者の医療費支援の充実のほか、就職支援や住宅支援、学習支援の充実が必要とする割合が高い。

